

イネスさんをお迎えし、この日曜日には久しぶりに港南台教会の礼拝に出席した。イネスさんは9年前にも訪ねてくださった。それ以来、教会の皆様のためにクリスマスやイースターに珍しいドイツのカードを毎年送ってくださり、お手紙には港南台教会のために祝福を祈っておられることを記している。今回は礼拝後、英語でスピーチをしてくださり、日本の讃美歌21にはドイツの讃美歌が100曲も使われていて、日本とドイツの教会が、共に礼拝で賛美していることを心から喜んでいると言われた。礼拝後に彼女を懐かしく思って大勢の方々が挨拶をしてくださった。

その後、ランチに誘って下さった方々と一緒に出掛けた。この時を彼女はとても喜んで、熱々のピビンバを食べながら、会話が尽きなかった。家族や、親族がドイツで働いた経験があったり、旅行したりと、日本も国際交流が盛んになってきている。テーブルに竹久夢二展のチケットが出てきた途端、イネスさんが「日本では襟足、うなじがエロテックだと思って見せるの?」と質問された。祇園の舞妓が首や背中にまで白塗りしていたからだろうか。日本人一同???「ドイツでは?」と尋ねると、顔を真っ赤にして「胸」と答えられた。楽しい会話もあったが、深刻なテーマもあった。それは、民族差別と経済格差であった。日本でもドイツでも他民族に対する差別がある。教育や言語の習得の有無により、差別が生まれる否応ない現実がある。難民を受け入れるにも限度があり、貧しい国への資金援助も、お金の行き先が不透明で、武器購入という真逆の方向へ流れることもある。このような解決の難しい問題を話し合いながら、草の根的庶民の交わりを保ち続ける事が国際間の平和への第一歩かもしれないと感じた。



名残は尽きなかったが、「私の分も声を上げて来て!」と頼まれて、午後のプログラムへの参加のため、横浜公園へ向かった。4000人以上もの人々が集まり、「他国のために海外で戦争するため集団的自衛権行使容認をする内閣の閣議決定は憲法9条に違反する!」と声を上げた。集会では各界からのスピーチがあり、アピールを採択し、3つのコースに分かれてデモを行った。

これはイネスさんには直接関係のない行動であったが、平和を求めるという点で共通する思いがあり、彼女は喜んで共に参加し、JR関内駅西~伊勢佐木モール~長者橋のデモコースを歩いた。横浜弁護士会に続き、港南台9条の会の幟を持ったエルミタージュの主の後について港南台の皆様と共にシュプレヒコールをあげた。



解散後に結婚式場のホテルでお茶にした。式後の新郎新婦の撮影の様子を見ることが出来た。イネスさんに手を振る新郎がいて、ちょっと驚いた。新婦がムツとしていた。イネスさんが彼らの将来をちょっぴり心配した。チャペル、披露宴用にセットされたホールを覗き、あまりの華やかさにため息をついた。最近では和装の花嫁、振袖の女性は少ないそうで、新郎新婦の母の留袖姿が日本の面影を残すのみとなっているようだ。

夜は中華街で食事を楽しむことにした。ここは中国的な華やかさ一杯、にぎやかさ一杯で、多くの観光客が往来していた。イネスさんは中国へも行ったのに、中華料理の記憶は北京ダックのみだったようだ。エビが怖いと言う。殻をむいて取り、そのまま食べてみせると、安心して食べ始めた。次々と料理が運ばれ、自宅では作れない美味に満足し、さらに満腹になって帰宅した。